

---

# ライトオブFriends

台風X号

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ライトオブFriends

### 【Nコード】

N7375S

### 【作者名】

台風X号

### 【あらすじ】

コメディ風味があり、面白い風潮に。台風X号オールスターズの人形アニメのキャラクターのシリーズが登場。

**第一話 最後の惑星「夜宮星」(前書き)**

小説OP主題歌「僕等の絆」

## 第一話 最後の惑星「夜宮星」

太陽系は、悪の存在「ダークネススラファイア」というチームに占領されていた。

しかし、地球の反対側を回る惑星「夜宮星」には、攻撃できない状態が続いていた。

そこにすむものが強大なパワーを持っているからである。

ダークネススラファイアの一人、アアンタンスとワヴ力は話し合っていた。

「気をつけないとキッズワインとピンクニョロモにはれるぞ。」

「すみませんアアンタンス殿。」

しかし、此の二人はばれていた。

フロッグマンとラッティに。

「敵を見つけましたぜボス。」

「ああ、ラッティご苦労。」

フロッグマンはワインを飲みながらブラックホールを作っていた。

ちなみにフロッグマンのブラックホールは吸い込む系統のものではなく、攻撃系、防御系のブラックホールであるため、周りのものを

吸い込まなくて済む。

「ブラックホールキャノン！」

「ああ！俺が攻撃したかったのにorz」

アアンタンス達にブラックホールキャノンが命中した。

ワヴカだけが生き残り、アアンタンスは黒こげになって魂が抜けて死亡。

ワヴカは、ピンクニョロモとキッズウィンに見つかった。

「やば！」

「ああーいた。」

「キッズウィン、ここは私に任して。」

「うん分かった。」

「高速電光石火乃舞！」

ワヴカは、空高く舞いあげられて何処かへと行った。

キッズウィンは、フロッグマンとラッティを見つけた。

「なにしてるんですかお二人さん。」

ビクッと反応した二人組。フロッグマンはこう言った。

「えーとね、アンタレスとサブちゃんの決闘場所がここだと聞いたんだ・・・という夢を見たんだ。」

キッズウインは、ニコニコしながら殺意の闘志を燃やしていた。

「ラッティ、此处は逃げよう。キッズウインに殺されかねない。」

「えっ、ということは念願のリーダーだ！フロッグマン死んでいけー！」

「てめえこそ殺す！」

フロッグマンは、青ざめた。キッズウインが聖雷をバチバチ言わせているところを見たからである。

「ブラックホールの・・・」

「聖雷アルファ！」

「防ぎ切れなかったー！」

フロッグマン、あまりの電撃攻撃で気絶と絶望。

ラッティもぬか喜びだった。

「ラッティ、貴様を噛み殺す。」

シャーベルタイガーが近くに来ていた。

「なぜ、貴様が此処に。格なるうえは、ジェットバースト！」

ラッティの手から空気砲が放たれたのだがしょぼい……

「なんで、俺はこうなんだー！」

「カタルシス  
刹牙茸」

ラッティ、体がバラバラになり退場……

つづく

「てか、続くのか？」

「続いてもよくね。」

次回 第二話 南極ちゃんの憂鬱。お楽しみに！

## 第一話 最後の惑星「夜宮星」(後書き)

次回も怒涛なコメディになるのかもね。感想お願いします。

## 第二話 南極ちゃんの憂鬱

ラヴィットは、いつものように遊んでいた。

そのことは南極ちゃんにとって憂鬱なことであった。

「あの娘、かわいすぎるのと子供すぎるのよ。」

北極ちゃんはそうとも思っていない。

「あなたって嫉妬深いよね。」

「べ、別に私嫉妬深くないからね。」

「南極姉さん。ツンデレっばい。」

赤道ちゃんがそいいうと南極ちゃんの顔が赤くなった。

「うるさいわね赤道ちゃんとお姉ちゃん！少しだけ出て行って！」

北極ちゃんと赤道ちゃんは、追い出された。

南極ちゃんは、イライラしていた。

「ラヴィット。あなたなんか私が鍛えなおしてやるわ。殺しの程度にね。」

怖いです南極ちゃん。

南極ちゃんは、ラヴィットのいるところに来た。

「いらっしゃい南極ちゃん。」

「ラヴィット、あなたね、はじめつけたらどう？」

「えっ、はじめ？」

「そうよ。私は自分をきれいにしない。だってほかのみんなもそうしているのよ。」

「私って、きれいじゃないといけないもん。」

「はあー、それでよくモカにセクハラされているでしょ。」

「そうかな？体触られているだけだけど・・・」

「それをセクハラっていうのよ！私だってモカにセクハラされた経験があるのよ。だからできるだけきれいにならない程度にしているのよ。」

ラヴィットは、南極ちゃんの空気を見ていた。

「殺気がすごいわ。」

「本題に戻るわよ。ラヴィットあなた血だらけになってくれない？」

狂気的な目でラヴィットを見つめた。

「何、なに・・・」

ラヴィットは怖くなり涙目になり始めた。

南極ちゃんは隠し持ってたカッターナイフをラヴィットに見せた。

「大丈夫よ、痛いのは最初だから。」

ラヴィットの運命は・・・

## 第二話 南極ちゃんの憂鬱（後書き）

次回 第三話 恐怖南極ちゃんの狂気。お楽しみに！

### 第三話 恐怖南極ちゃんの狂気

カッターナイフを振り回した南極ちゃん。

ラヴィットたちは、必死に逃げた。

ラヴィットは、狂気の原因の証拠を見つけた。

「まさか、南極ちゃん操られているの。」

南極ちゃんを操っている謎の物体それを作った薔薇を持った黄色の犬がいた。

「太陽系で唯一、残った星だ。人々を利用して侵略を行える。」

彼の名は、レントヴ・ケーロという人物である。

能力は、物を使い人々を操作する程度の能力

「南極ちゃんの後ろに回らないと。」

ラヴィットは、南極のカッターナイフを抜けて南極ちゃんを持ち上げた。

「ごめん、南極ちゃん投げるわ。」

ラヴィットは、一見かわいいウサギ娘だが、怪力の持ち主である。

南極ちゃんは、レントヴに当たった。

「痛いわね。」

「ごめん、南極ちゃん。」

「ラヴィットいいのよ。ここにいる犬が真犯人だなんて。」

「やめろ！そのカッターナイフで・・・」

「私、カッターナイフじゃなくても氷で殺せれるのよ。」

「ひゃあああああああああ！」

南極ちゃんとラヴィットはその場を後にした。

### 第三話 恐怖南極ちゃんの狂気（後書き）

次回 第四話 チームモコの苦難。お楽しみに！

## 第四話 チームモコの苦難

チームモコは、緊迫した状態になっていた。

敵軍を感知するレーダーで西に9体、東に6体、南にチームフロツグマンの奴ら4体が接近していた。

「応援要請しますか？」

ミネルバが言った。

しかしモコは、この状況を把握した。

「さて、ここで応援要請しても、応援要請した方のチームに攻撃を受ける。それを避ける作戦を立てなければ。」

「モコ、三つのチームに分かれて行動取りましょう。」

モコは、三つのチームに分かれて行動をとることにした。

モコとミネルバとニョロトリオ（長男）とシロヤギとともに、東の軍をつぶしに行った。

イルカーンとオックセとシカゴとニョロトリオ（三男）は、西の軍をつぶしに行った。

ラヴィットとリョウゲイとニョロトリオ（次男）とエレレイは、チームフロツグマンのチームの方に向かった。

敵軍は、アニマルアンドロイドたちであった。

「元素針！」

モコの攻撃で身動きを閉じた。

シロヤギの煙の攻撃とミネルバの斧型ハンマーが合体してアンドロイドを破壊した。

シカゴ達は、アンドロイドを攻撃しまくっていた。

「スーパーハイドロポンプ！」

「イルカの獄砕<sup>じごくさい</sup>！」

「コード・ハンティング！」

「鹿の最大攻撃S！」

シカゴ達の方もアンドロイドを全滅させた。

## 第四話 チームモコの苦難（後書き）

次回 第五話 リーダー、トントチ現る！お楽しみに！

## 第五話 リーダー、トントチ現る！

リヨウゲイ達は、フロッグマンが率いるチームと激突していた。

「わたしってきれい？」

「全然、綺麗じゃないよ。むしろ口から憂鬱弾って気持ち悪いよ。」

ラヴィットが挑発していた。

「むかつくのよ、まるでそこにいるホエールと一緒によ！」

「貴様、敵軍と一緒にするんじゃない！」

「また、始まった。」

ニヨロトリオ（次男）は、フロッグマンに言った。

「お前って、大変だな。馬鹿どもと一緒に戦っているのって。」

「馬鹿？はんつ、俺のところに馬鹿はいない。くたばれブラックホールキャノン！」

ニヨロトリオ（次男）は、攻撃を受けて吹き飛ばされてしまった。

モコ達は、リーダー・トントチと戦っていた。

「ハイドロポンプ！」

「そんなものは効きません。」

一方・・・サブちゃん達は・・・

「アンタレス、どこ行つた。」

「?? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?」

「って何、韓国語で台風X号オールスターズの応援を呼び掛けているんだ！」

「だって、世界的に若干人気のある台風X号オールスターズだから。」

一方、トントチとの戦いは、一步も譲られない長期戦になっていた。

「何もかも、受け止める。」

「イルカーン達よ早く来てくれ。」

## 第五話 リーダー、トントチ現る！（後書き）

次回 第六話止められない敵。お楽しみに！

日本でも流行っていますかね？台風X号オールスターズもとい台風ワールド。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7375s/>

---

ライトオブFriends

2011年10月9日22時52分発行